

YUASA REPORT 132

第132期 2010年4月1日 → 2010年9月30日 証券コード:8074



Contents

01 今期の基本方針

03 株主の皆さまへ

05 セグメント別の概況

07 トピックス

08 **特集** ユアサ・エコ・エンジニアリング事業

省エネ・環境改善をトータルサポート

11 連結財務諸表

13 会社概要

14 株式情報

裏表紙 シリーズ第2回 ユアサが歩んだ「商継史」



ユアサ商事株式会社

当社グループでは、「『産業とくらし』の発展に貢献する商品の販売」と「商品販売に関わる機能やサービスのグループ全体での装備」をコアコンピタンスとし、工場関連分野と住宅・建築・建設分野において、次代を見据えた事業提案を推進しております。

株主の皆さまにおかれましては何卒変らぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

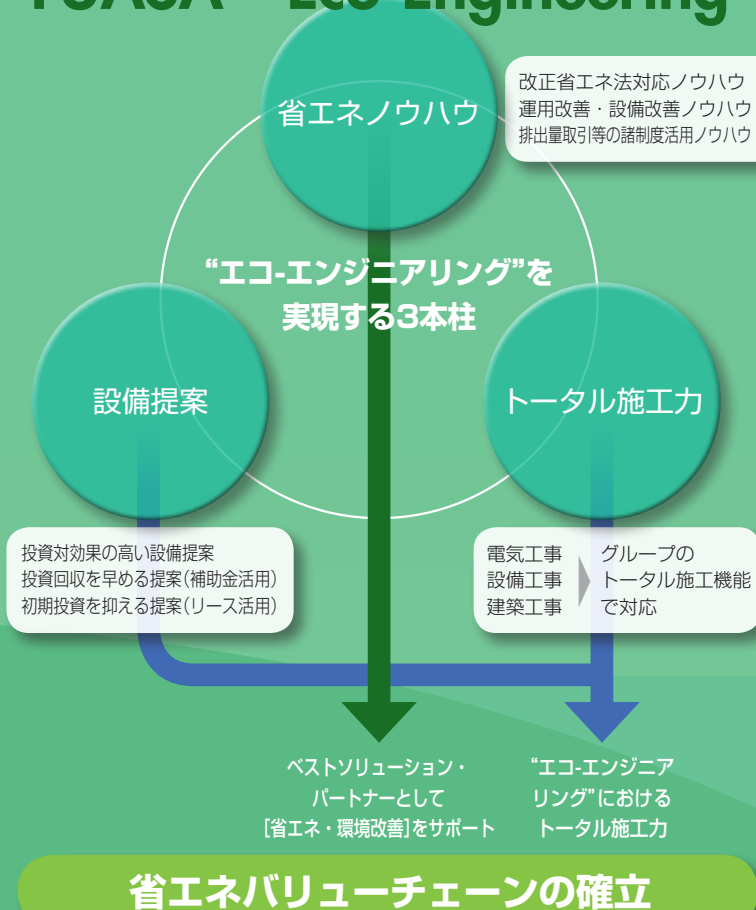
企業理念

誠実と信用
進取と創造
人間尊重

環境・省エネ事業

ユアサの“エコエンジニアリング”が、工場、ビル、オフィス、事業場の省エネ・環境改善をトータルにサポートいたします。

YUASA・Eco-Engineering



構築に注力してまいります。

成長分野の開拓

成長分野の開拓として工作機械などの生産財市場としての「海外市場」、太陽光発電を切り口とした「住宅新市場」、ホームセンターや家電量販店向けの「消費財市場」の3市場でのシェア拡大をはかります。

海外市場への取組み

生産財市場としての
中国・アジア・新興国

当社は中国・アジアを中心に海外駐在員事務所5ヶ所、海外現地法人13社のグローバルネットワークを有しています。今期は増産対応や環境・省エネに対するユーザーニーズを捉えた大型案件への対応を強化しつつ、現地商社との提携も視野に入れた業容の拡大を行います。また、インドやメキシコなど新興国への取組みについても早期に実行してまいります。



海外の工場に納入した機械を検証することも大切な機能の一つです。

3市場の シェア拡大



海外市場



住宅新市場



消費財市場

住宅新市場への取組み

エコハウスチャレンジ

エコハウスチャレンジでは、再生可能エネルギー活用による「創エネ」、高効率設備機器や断熱性能向上による「省エネ」、省エネ型ライフスタイルへの転換を促す「見える化」の3つのご提案により、環境負荷の低減やエネルギー使用量の削減による省コストだけでなく、快適性や耐久性の向上まで配慮した環境にやさしい住まいづくりをサポートいたします。



消費財市場への取組み

ユアサプライムス株式会社

当社の連結子会社であるユアサプライムス株式会社では、全国の大型スーパー(GMS)、ホームセンター、家電量販店向けに冷暖房機器(扇風機・コタツ)などの季節商品の開発輸入・販売を行っています。今期は年間を通じて販売できる商品(調理家電、地デジ対応チューナー等)の開発・販売を行う一方、インターネット販売にも注力し、さらなる収益力の強化を目指してまいります。



ごあいさつ

平素は、当社グループの事業運営につきまして格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第132期第2四半期(2010年4月1日から2010年9月30日まで)の営業の概況をご報告申し上げます。

よろしくご高覧賜りますようお願い申し上げます。

2010年11月

代表取締役社長

佐藤悦郎

今期業績の確保と中長期の

当第2四半期(2010年4月1日から2010年9月30日まで)は、「既存事業基盤の再構築と強化」と「成長分野の開拓」などに取り組みました結果、工業機械、産業機器の販売が増加し、住宅建設市場においても太陽光発電を中心とする環境・省エネ機器の販売が伸びましたことなどから売上高は前年同四半期比16.0%増の1,640億76百万円となり、営業利益は17億42百万円(前年同四半期は6億74百万円の営業損失)、経常利益は16億32百万円(前年同四半期は8億1百万円の経常損失)、四半期純利益は5億62百万円(前年同四半期は45億69百万円の四半期純損失)となりました。

当期(2010年10月1日から2011年3月31日まで)は、今期(2010年4月1日から2011年3月31日まで)業績の確保はもちろんのこと、中長期にわたり当社グループがグローバルに成長するための成長戦略を策定、実行する期と位置付けております。

先ず今期業績の確保に向け、受注が急回復しております工業機械部門(前年同四半期売上高54.3%増)や産業機器部門(同33.4%増)の受注スピードを国内・海外で更にアップさせるとともに、住宅・建材部門(同7.5%増)で取り組んでおります住宅用太陽光発電システムの販売(同2.5倍)等、住宅用環境商材を更に伸長させてまいります。

また、環境・省エネ事業「クールアースチャレンジ!」を更に推進してまいります。具体的には当社の環境・省エネ分野の強みである「省エネノウハウ」「設備提案」「トータル施工力」をワンパッケージにした「エコエンジニアリング事業」をグループ全体で推進いたします。省エネコンサルティングから



成長に向けシェアを拡大します

省エネ設備・機器の提案、電気・設備・建築に関わる施工までの省エネバリューチェーンをトータルにサポートできることが当社グループの強みと考えており、今後も中長期にわたりお取引先様の「省エネ・省コスト」のお役立ちができるよう更に努力してまいります。

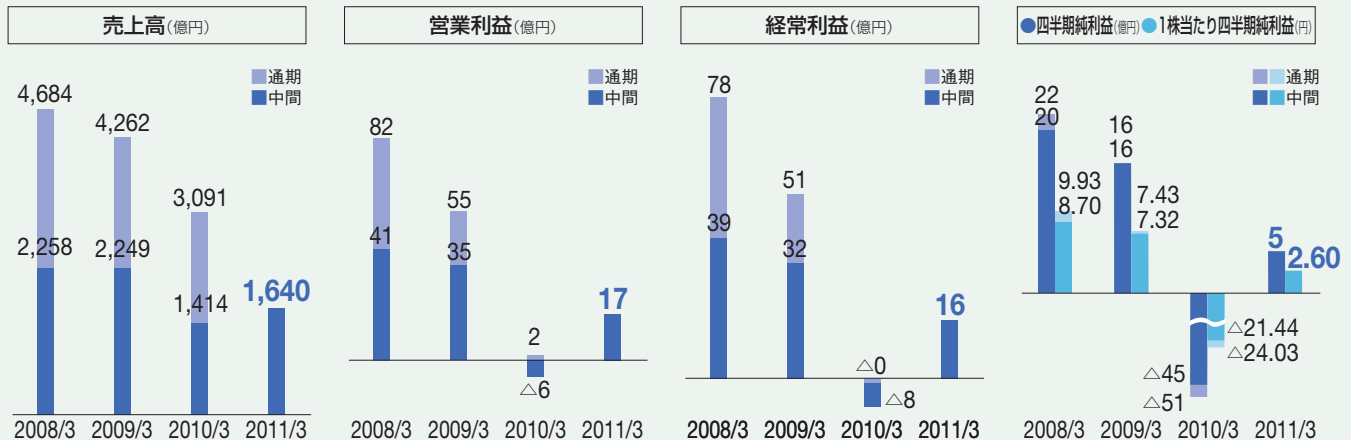
また、連結子会社ユアサプライムス社を通じ消費財市場でのシェアを拡大いたします。主力のプライベートブランド商品である冷暖房機器(扇風機、コタツなど)のシェアを拡大するとともに、取扱商材を増やし、ホームセンター・家電量販店・大型スーパー(GMS)向け調理家電など更なる新商品開発を進めてまいります。また大手ECサイト上でのインターネット販売など、新規チャネルの開拓にも注力してまいります。

中長期を睨んだ「グローバル戦略」として、インド、メキシコなどの新興国への拠点設立を早期に実施いたします。また、現地商社との提携などによりローカル市場の開拓をはかり、

中国・アジア(タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム)に展開する当社のグローバルネットワークを更に拡充してまいります。また、当社の工場分野だけでなく建設分野(管材・空調部門、住宅・建材部門)においてもグローバル戦略を本格化させてまいります。具体的には、海外においてオールジャパンの住設機器・建材を集めたショールーム展開や「省エネ・省コスト」を切り口にしたユーティリティ機器の販売に着手いたします。

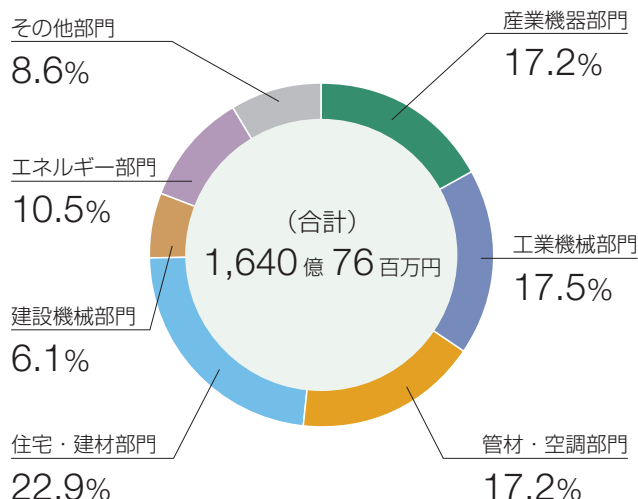
また、来期からスタートする中期経営計画につきましては、2011年の2月には発表できる予定でございます。

株主の皆さまにおかれましては今後も何卒変らぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



セグメント別の概況

セグメント別売上高構成比



産業機器部門

売上高 **282億94**百万円
(前年同期比33.4%増)

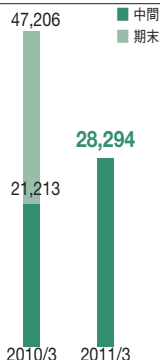


[取扱商品]

切削工具、産業設備、制御機器、物流機器 他

円高の長期化懸念から、需要が持ち直していた液晶・半導体関連などに一服感がみられたものの、工場稼働率の上昇により切削工具等が堅調に推移しました。このような状況の中、在庫物流機能の強化とWeb受注の拡大に取り組み、制御関連商品、マテハン関連機器などの拡販に注力いたしました。

売上高の推移(百万円)



工業機械部門

売上高 **287億19**百万円
(前年同期比54.3%増)

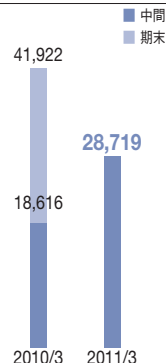


[取扱商品]

工作機械、鍛圧機械 他

アジア市場で工作機械需要が伸長するとともに、国内においても設備投資が持ち直し、輸出関連産業を中心に更新需要も増加するなど受注環境が改善しました。このような状況の中、好調な東南アジア市場での拡販、新規顧客の開拓、提案営業力及びグローバルネットワークの強化などに注力いたしました。

売上高の推移(百万円)



管材・空調部門

売上高 **281億73**百万円
(前年同期比1.9%減)

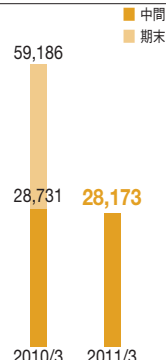


[取扱商品]

管材機器、空調機器 他

リフォーム・取替え需要が改善し、マンション着工件数が底を打つなど民間建設投資は緩やかに持ち直しつつあるものの、依然として建設需要の回復スピードが遅く厳しい状況で推移しました。一方、猛暑の影響からエアコンの販売が増加しました。このような状況の中、エコキュートなどの環境・省エネ機器や空調機器の拡販とリフォーム市場向け商品の拡充に注力いたしました。

売上高の推移(百万円)



住宅・建材部門

売上高 **376億27**百万円
(前年同期比7.5%増)

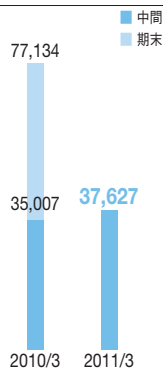


[取扱商品]

外構資材、住宅設備、
太陽光発電システム 他

住宅エコポイント制度の効果などから、戸建住宅着工戸数が回復しており受注環境の改善がみられました。このような状況の中、太陽光発電などの住宅用環境・省エネ機器の拡販、屋上緑化を中心とした「クールビルプロジェクト」や橋梁補修の「高欄プロジェクト」の推進、設計・施工機能を活かした新築・改修需要の獲得などに注力いたしました。

売上高の推移(百万円)



建設機械部門

売上高 **100億48**百万円
(前年同期比6.8%減)

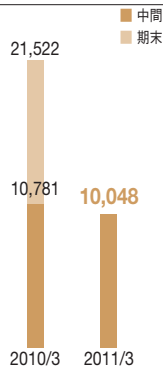


[取扱商品]

建設機械、資材の販売及びリース・
レンタル 他

依然として公共工事は低迷しており、レンタル業者の新規設備投資需要は低調に推移しました。このような状況の中、環境・省エネ・安全に配慮した改修用の建設機械や小型機器の拡販、アジア市場向けの中古建設機械オークション事業の拡充などに注力いたしました。

売上高の推移(百万円)



エネルギー部門

売上高 **171億71**百万円
(前年同期比25.0%増)

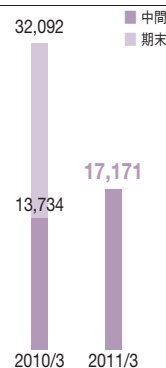


[取扱商品]

石油製品 他

低燃費自動車の普及や軽油などの産業用燃料の需要減少により販売競争が激化する中、価格競争力の強化、新規顧客の開拓、軽油の拡販などに注力いたしました。

売上高の推移(百万円)



その他部門

売上高 **140億41**百万円
(前年同期比5.3%増)

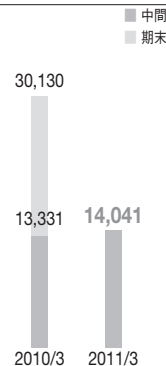


[取扱商品]

生活関連商品、木材製品 他

引き続きホームセンターや家電量販店への生活関連商品の販売強化に取り組み、猛暑を背景に扇風機、窓用エアコンなどの夏物家電が堅調に推移いたしました。また、木材製品については、依然として足元の木材需要は弱いものの、住宅用資材、梱包用資材などが堅調に推移いたしました。

売上高の推移(百万円)



トピックス

産業とくらしのグランドフェア2010開催のご報告

グランドフェアは、当社の販売先様の会である「やまずみ会」が主催し、当社の仕入先様の会である「炭協会」が協賛する形で毎年開催する展示会で、今年で33回目を迎えました。関東、中部、関西の3拠点で開催した今年のグランドフェアテーマは「『Cool Earth Challenge!』- 近未来への環境設計 図ここにありませう」とし、エネルギーの「創る・貯める」「省く」「見える」「改善する」をコンセプトとしたシステム展示を行うなど、環境・省エネの提案展示に注力いたしました。また、各日程初日には(株)NTTファシリティーズソーラープロジェクト本部田中良先生をお招きし「太陽光発電システムの事業性について～ユーザー・ディーラーの立場を含め～」をテーマにご講演をいただきました。

<グランドフェア2010実績報告>

	日程	会場	受注高目標	受注高実績	来場者目標	来場者実績
関東	2010年7月9日(金) ～7月10日(土)	幕張メッセ	330億円	340億円	20,000人	18,000人
中部	2010年9月3日(金) ～9月4日(土)	ポートメッセ なごや	120億円	115億円	10,000人	9,200人
関西	2010年9月17日(金) ～9月18日(土)	インテックス 大阪	130億円	129億円	11,000人	10,900人
合計	—	—	580億円	584億円	41,000人	38,100人



関東グランドフェア会場の様子。2日間で18,000人のご来場をいただきました。

太陽光発電システムの事業性について講演される田中先生。



日本貿易会 「大学における環境講座」

社団法人日本貿易会地球環境委員会が環境分野における社会貢献活動の一環として実施しております「大学における環境講座」にて当社YES(ユアサエナジーソリューション)室広瀬室長が講演を行いました。本講座は2010年10月14日に横浜国立大学大学院で開催され、同大学院の教員、学生約30名が出席されました。日本貿易会では、2002年度より環境分野における社会貢献活動の一環として大学で環境講座を実施しており、将来を担う若い世代に事業を通じた環境問題への取組みの重要性と商社の環境ビジネスを紹介しています。講演では、変わりゆく環境ビジネス市場の中で企業の省エネ推進の意義と商社ならではの「環境・省エネ・省コストソリューション」ビジネスの事例を解説いたしました。今後もこれらの取組みを通じ、地球温暖化のための環境省エネ普及活動を行ってまいります。



横浜国立大学で「省エネビジネス」についての講演を行ないました。

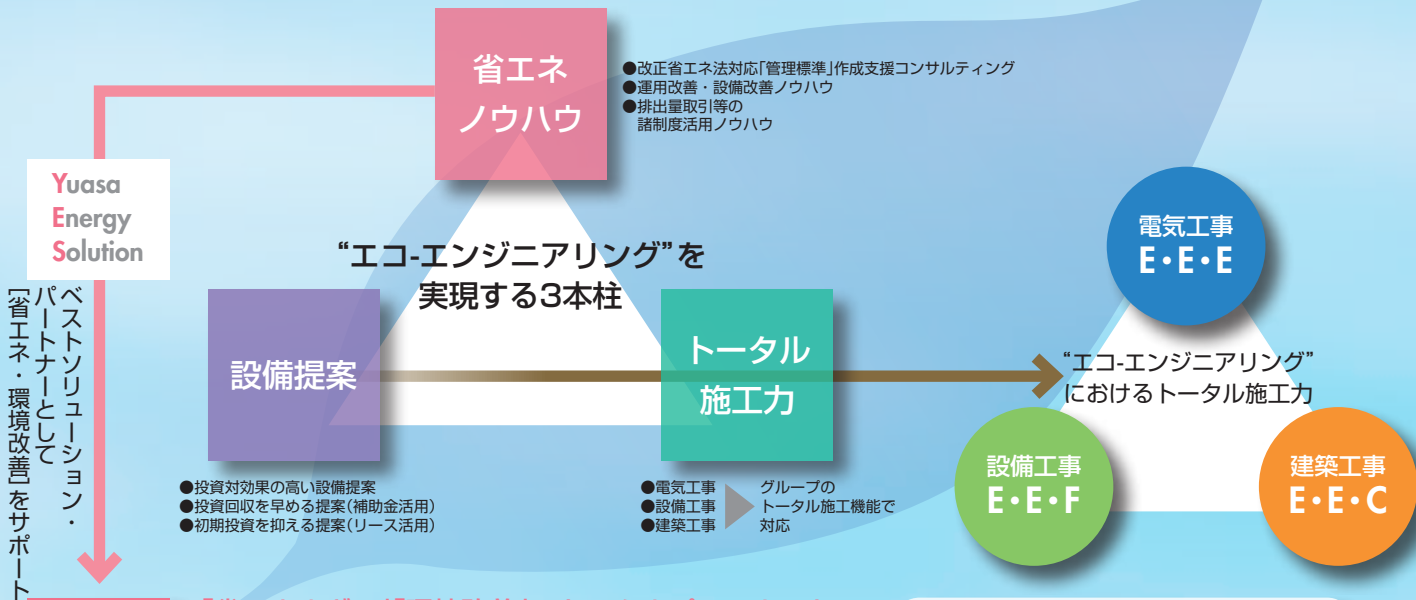
ISO14001グループ認証を 取得いたしました

2010年10月にユアサ商事グループは、ISO14001マルチ認証(グループ認証)を取得いたしました。これまでは、各事業所、関係会社で認証書を取得していましたが、今回のマルチ認証では、ユアサ商事(株)、(株)国興、ユアサテクノ(株)、ユアサプロマテック(株)、(株)サンエイ、ユアサR&S(株)、ユアサ燃料(株)が当社グループとして一つの認証書のもとに承認を受けました。今後もグループ丸となり環境パフォーマンスの改善に向け組織活動、製品及びサービスにおける環境負荷の低減に注力してまいります。



ISO14001ユアサ商事グループ認証登録証明書。

ユアサの“エコエンジニアリング”は、「省エネノウハウ」「設備提案」「トータル施工力」の3つの力を組み合わせ、「省エネ」「省コスト」を実現します。



「省エネルギー」「環境改善」のトータルプランナーとして、効率的なプランニングをご提案します。

調査から計画、施工、保守まで一貫してサポート

▼ 調査・診断

●YES-net (事業者(企業)としてのエネルギー使用量の把握) ●エネルギー計測 ●エネルギー消費状況分析 ●設備・機器の管理運用状況分析 ●設備・機器の劣化診断 ●「管理標準」作成支援コンサルティング ●地方自治体の地球温暖化対策に関するコンサルティング

▼ 省エネ計画提案

●省エネ法中長期計画書策定 ●地方自治体の地球温暖化対策条例に対応したCO₂削減計画の策定 ●エネルギー総合有効利用計画策定 ●環境負荷低減策策定 ●ライフサイクルコストの削減計画及び設備リニューアル案のご提案 ●各種補助金取得支援 ●CO₂排出量取引仲介

▼ 設計・施工マネジメント

●省エネルギー機器の導入 ●既設機器・設備のリニューアル ●施設・設備機器の新設 ●生産ラインにおける効率向上ソリューション ●建築確認申請業務

▼ サポートマネジメント

●YES-netによるエネルギー使用量の分析及び運用改善のご提案 ●保守・管理事務 ●建築設備検査報告業務 ●特殊建築物定期報告業務

環境情報ウェブサイト 「ECO JAPAN」 コラム

「儲かる省エネ」
連載中!



日経BP社の運営する環境情報ウェブサイト「ECO JAPAN」にて、当社YES (ユアサ エナジーソリューション) 室長広瀬薫が「儲かる省エネ」をテーマにコラムの連載をしております。本コラムでは2010年4月に施行された改正省エネ法への対策のポイントを当社の豊富な省エネコンサルティング事例を交えてご紹介しております。

掲載先URL

<http://eco.nikkeibp.co.jp>

ユアサ・エコ-エンジニアリング事業

ユアサの“エコ-エンジニアリング”が
工場、ビル、オフィス、事業場の省エネ・環境改善を
トータルにサポートいたします。

E・E・E

【電気工事】

Ecology Energy
Electric

工場、ビル、オフィス、公共施設、
交通関連施設まであらゆる施設の電
気工事に対応いたします。

照明各種の設置

LED防爆照明、LED屋外照明、高天井LED照明 等
の高効率照明各種を敷地内の街灯・建物の天井など
あらゆる場所に設置します。



産業用太陽光発電システムの設置

産業用太陽光発電システムの豊富な納入・建設コ
ンサルティング実績を持つ当社グループが、現地
調査、設計・見積り、公的補助金申請アドバイス、
竣工引渡しまで一貫してサポートいたします。



“エコ-エンジニアリング”における
トータル施工力

電気工事
E・E・E

設備工事
E・E・F

建築工事
E・E・C



E・E・F

【設備工事】

Ecology Energy Facility



施設の設備・機器のレイアウト・プランニング&エンジニアリングにより省力化ラインを実現いたします。



環境・省エネ・省コストに配慮した設計・工事で、工場・倉庫にエコな作業空間を創造いたします。

空調工事：空間・負荷状況に応じた最適な空調方式をご提案いたします。

●太陽熱温水器の採用



●屋上緑化と自動灌水システムの採用

E・E・C

【建築工事】

Ecology Energy Constructing

オフィスビル総合設備のトータルプランナーとして、「エコロジー&エコノミー」に配慮しつつ「快適な空間」を実現します。

最先端の省エネ技術を集結。

4つのソリューションで「省エネ」「創エネ」「省コスト」を実現するエコ・オフィスビル化をサポートします。

省エネ & 創エネ

リサイクル・エコノミー

安全・快適な執務環境

省スペース

オフィスビル総合設備のトータルプランナー



●温度・湿度個別コントロール空調システムの採用



●電力計測システムでエネルギーを「見える化」



●高遮熱断熱複層ガラス(Low-eペアガラス)の採用

建築工事 施工事例：ユアサ商事(株)本社別館

旧本社別館は1967年に竣工し、40年ほど使用していましたが、老朽化による耐震性能の向上の必要性が高まってきたため、2009年に従来の地下躯体を活かし5階建てを9階建てに建て替える工事に着手しました。その際、省エネを推進する商社として社屋そのものをショールーム化できないかという構想が持ち上がりました。温度・湿度を個別にコントロールする空調システム(デシカント空調方式)の採用、太陽光発電システム(11.23kW)による創エネの実施、熱の負荷侵入を抑えるペアガラス(二重ガラス)の採用、エネルギーの見える化システムの採

用などビル全体で省エネルギーネットワークを構築しています。省エネ率はエネルギー消費原単位で約14%(*)の省エネと数値的にはやや低く感じますが、最新の設備・機器を導入した新築のビルとの比較ですので、従来との比較でいえば飛躍的に省エネ化された「エコ・オフィスビル」といえます。「エコロジー&エコノミー」に配慮した「快適」なオフィスを実現しておりますので、見学をご希望される株主さまのご来社をお待ちしております。

※(財)省エネルギーセンター「診断ビルの用途別エネルギー原単位」との比較による本社別館についてのお問い合わせ：03-3665-6525

ユアサ商事株式会社
取締役執行役員
建設事業統括
平野 正

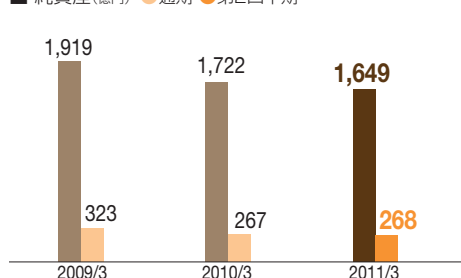
連結財務諸表

連結貸借対照表 (要旨)

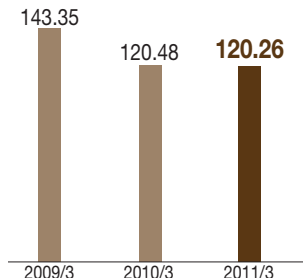
(単位：百万円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日)	科目	当第2四半期 連結会計期間末 (2010年9月30日現在)	前期 (2010年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	125,799	131,405	流動負債	135,001	131,374
現金及び預金	22,897	23,394	支払手形及び買掛金	88,669	89,812
受取手形及び売掛金	80,251	84,164	短期借入金	40,918	35,822
たな卸資産	15,743	16,677	未払法人税等	394	332
短期繰延税金資産	1,235	1,266	賞与引当金	604	449
その他	6,515	6,822	その他	4,415	4,958
貸倒引当金	△844	△919	固定負債	3,044	14,169
固定資産	39,125	40,863	長期借入金	196	11,396
有形固定資産	17,146	17,253	退職給付引当金	321	264
無形固定資産	1,979	2,051	その他	2,527	2,508
投資その他の資産	19,999	21,558	負債合計	138,046	145,544
その他	22,348	23,289	純資産の部		
貸倒引当金	△2,348	△1,730	株主資本	27,014	26,412
資産合計	164,925	172,268	資本金	20,644	20,644
			資本剰余金	6,777	6,777
			利益剰余金	1,378	805
			自己株式	△1,786	△1,814
			評価・換算差額等	△981	△359
			新株予約権	233	173
			少数株主持分	612	497
			純資産合計	26,878	26,724
			負債純資産合計	164,925	172,268

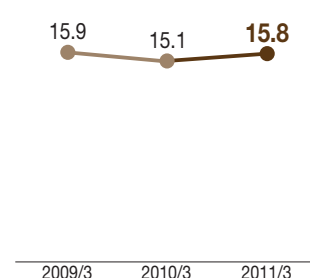
■ 総資産(億円) ● 通期 ● 第2四半期
■ 純資産(億円) ● 通期 ● 第2四半期



■ 1株当たり純資産(円) ● 通期 ● 第2四半期



■ 自己資本比率(%) ● 通期 ● 第2四半期



■ 資産

流動資産は、前連結会計年度末に比べて56億6百万円減少し、1,257億99百万円となりました。これは、受取手形及び売掛金が39億13百万円減少し、たな卸資産を9億33百万円それぞれ圧縮したことなどによります。また、現金及び預金につきましては負債において借入金を61億円返済しましたが、キャッシュ・フローの良化により4億96百万円の減少となっております。固定資産は、前連結会計年度末に比べて17億37百万円減少し、391億25百万円となりました。この結果、資産合計は、前連結会計年度末に比べて73億43百万円スリム化し、1,649億25百万円となりました。

■ 負債

流動負債は、前連結会計年度末に比べて36億27百万円増加し、1,350億1百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が11億42百万円減少する一方で、シンジケートローンの期日が来年9月に到来する事により短期借入金が50億95百万円増加したことなどによります。固定負債は、前連結会計年度末に比べて111億24百万円減少し、30億44百万円となりました。これは、長期借入金が上記の期日到来に伴い、112億円減少したことなどによります。この結果、ネット・デット・エクイティレシオは前期比末0.91倍から0.70倍へと改善致しました。

■ 純資産

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて1億53百万円増加し、268億78百万円となりました。これは、四半期純利益の計上などにより利益剰余金が5億73百万円増加する一方で、その他有価証券評価差額金が5億33百万円減少したことなどによります。

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金は、税金等調整前四半期純利益を売買立替が改善された事等から10億37百万円計上したほか、資金効率の高い事業が伸長し、59億87百万円(前年同四半期は8億8百万円の支出)のキャッシュ・インとなりました。

■ 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の支出は、定期預金の預入による支出や有形固定資産の取得による支出などがあり、3億26百万円(前年同四半期は7億70百万円の支出)となりました。

■ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の支出は、短期・長期借入金の返済などの支出があり、64億29百万円(前年同四半期は20億74百万円の支出)となりました。

連結損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間
	(2010年4月1日～ 2010年9月30日)	(2009年4月1日～ 2009年9月30日)
売上高	164,076	141,416
売上原価	150,356	129,254
売上総利益	13,720	12,162
販売費及び一般管理費	11,977	12,836
営業利益又は営業損失(△)	1,742	△674
営業外収益	802	767
営業外費用	912	895
経常利益又は経常損失(△)	1,632	△801
特別利益	9	151
特別損失	604	4
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,037	△654
法人税、住民税及び事業税	275	162
法人税等調整額	164	3,835
少数株主利益又は少数株主損失(△)	35	△83
四半期純利益又は四半期純損失(△)	562	△4,569

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間
	(2010年4月1日～ 2010年9月30日)	(2009年4月1日～ 2009年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,987	△808
投資活動によるキャッシュ・フロー	△326	△770
財務活動によるキャッシュ・フロー	△6,429	△2,074
現金及び現金同等物に係る換算差額	△17	32
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△786	△3,621
現金及び現金同等物の期首残高	22,959	29,255
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	187	120
現金及び現金同等物の四半期末残高	22,360	25,754

会社概要

会社概要 (2010年9月30日現在)

商号 ヲアサ商事株式会社
YUASA TRADING CO.,LTD.
本社 東京都中央区日本橋大伝馬町13番10号
創業 1666年(寛文6年)3月

設立 1919年(大正8年)6月25日
資本金 20,644百万円
従業員数 1,506名(連結) 786名(単体)

取締役及び監査役 (2010年10月1日現在)

代表取締役社長 執行役員	佐藤 悦郎	取締役 執行役員 建設事業統括 兼ユアサヒラノ(株)代表取締役会長	平野 正
常務取締役 執行役員 経営管理部門統括 兼輸出管理委員会委員長 兼倫理・コンプライアンス委員会委員長 兼内部統制委員会委員長	澤村 和周	取締役 執行役員 建設第二マーケティング事業本部長 兼ユアサR&S(株)代表取締役会長	松平 義康
常務取締役 執行役員 工業マーケティング事業本部長 兼(株)国興代表取締役会長	鈴木 通正	取締役 執行役員 海外事業推進担当 兼ファクトリーソリューション本部長	田村 博之
取締役 執行役員 経営管理部門副統括 兼財務部長	宮崎 明夫	監査役(常勤)	井上 周司
取締役 執行役員 地域担当 兼関東第一支社長 兼関東第二支社長	牧野 恒晴	監査役(常勤)	井上 明
		監査役(社外)	高谷 進
		監査役(社外)	小田嶋清治

ユアサ グローバルネットワーク



株式情報

(2010年9月30日現在)

株式の状況

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式総数	216,477,149株
	(自己株式15,081,677株を除く)
株主数	18,481名

大株主 (上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	13,655	6.30
(株)三井住友銀行	5,943	2.74
東部ユアサやまずみ持株会	5,875	2.71
西部ユアサやまずみ持株会	5,634	2.60
ユアサ炭協持株会	5,631	2.60
ダイキン工業(株)	4,520	2.08
日本マスタートラスト信託銀行(株)	4,463	2.06
(株)森精機製作所	4,249	1.96
TOTO(株)	4,080	1.88
オークマ(株)	3,981	1.83

- 1.千株未満は切り捨てて表示しております。
- 2.持株比率については、自己株式を控除して算出し小数点第3位以下は切り捨てて表示しております。
- 3.当社は自己株式15,081千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
- 4.上記信託銀行持株数のうち、当該信託銀行の信託業務に係る株式数は、次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行(株)	13,655千株
日本マスタートラスト信託銀行(株)	4,463千株

株主メモ

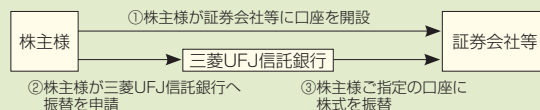
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL.0120-232-711(通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.yuasa.co.jp/ir/index.html (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- (1) 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。

特別口座に記録されている株式は、株式市場で売買できません。株式市場で売買するためには、証券会社等に口座を開設し、三菱UFJ信託銀行の特別口座から証券会社等の口座へ株式をお振り替えいただく必要があります。特別口座から証券会社等の口座への振替のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行で承ります。

(お手続き手順)

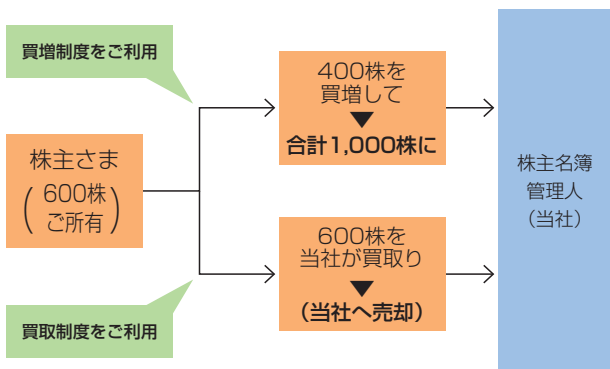


単元未満株式(1,000株未満の株式)を
お持ちの株主さまへ

当社株式は、証券市場での取引は1,000株(1単元)単位となっており、単元未満株式(1~999株)を証券市場で売買することはできません。当社は単元未満株式の買増制度を導入いたしております。この制度は、1単元(1,000株)に不足する株式を買増して、1,000株単位にまとめることができるというものです。また、1,000株に満たない株式を当社で買取らせていただく単元未満株式の買取制度につきましても、これまでどおり利用が可能です。

また、単元未満株式の買取・買増にかかる手数料は無料となっておりますので当制度のご利用をご検討ください。但し、証券会社において取次手数料などがかかる場合がございますのでお取引の証券会社にお問い合わせください。

【買増・買取制度の例】600株ご所有の場合



単元未満株式の買取・買増請求、特別口座から証券口座への振替請求における必要書類の入手・お手続きの詳細については、右記三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部までお問い合わせください。

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

受付 土・日・祝祭日を除く
時間 平日9:00~17:00

0120-232-711
(フリーダイヤル)

一大ビジネス街・
日本橋界限

～一大ビジネス
センターの形成～



340年を超えて

日本の「商い」を見つめ、「継いで」きたユアサ商事。

前号では初代湯浅庄九郎による京都での創業から江戸での暖簾揚げ、正式屋号「炭屋」の制定までを紹介しました。

今号では、当時のメインストリートで一大ビジネス街と呼ばれた日本橋界限の歴史をお伝えします。

◎明暦の大火からの復興

明暦3年(1657年)1月、明暦の大火と呼ばれる大火災によって江戸の町はその大半を焼失します。それから10数年後、これを契機に新しい都市計画のもと復興した江戸は、町数も人口も増加。日本橋通と本町通には商人が軒を並べ、初代湯浅庄九郎が進出する頃には商業の中心地として活況を呈していました。三井越後屋(現・三越)も初代湯浅庄九郎進出の一年前、延宝元年(1673年)にこの一画に店を構えています。

◎江戸商業の中心街の形成

享保11年(1726年)、江戸店を本石町から本町通、通油町(現・日本橋大伝馬町、本館所在地)へと移転する頃には、江戸の町は八百八町から千六百七十八町に、人口は80万人から120万人へと膨張していました。そんな江戸の中心地・日本橋界限も発展の一途を辿り、京橋方面から日本橋を渡り、神田鍛冶町方面筋違橋(後の万世橋)に至る日本橋通と、常磐橋御門にはじまり、本町・大伝馬町・通旅籠町、通油町、通塩町、横山町と浅草橋に至る本町通は日本の幹線道路として広く描かれました。これが十文字に交差して江戸商業の中心街を構成。豪商が軒を並べる一大ビジネスセンターを形成していました。その江戸商業の中心街でユアサは押しも押されぬ名店へと発展していきました。